

厚みのある組織と活動で 卸への理解者の輪を広げる

インタビュー／飯塚敏高(広報・研修委員会委員長)



熊倉会長を引き継ぎ、今年1月の定時代議員会で薬政連会長に就任された鹿目新会長に活動の目標や運営の基本方針、戦略などについて伺った。

鹿目新会長は、流通改革や卸の存在価値を高めることを重要課題として強調し、卸連合会と連携してそれら課題に取り組む決意を表明。そして、熊倉会長が築き上げた地盤をしっかりと受け継ぎ、卸売業界の健全な発展に向けて、政治の力添えをもらえる活動に邁進する思いを熱く語った。

■日時:平成26年4月18日(金) 14:00~15:00 ■場所:卸連合会応接室

熊倉会長の地盤を受け継ぐ

——まずは会長に就任されたご感想をお聞かせください。

この度、ご指名を受けて薬業政治連盟の会長に就任いたしました。私自身は平成23年1月から副会長として、熊倉会長と薬政連の活動をご一緒させていただきました。

その中で、熊倉会長の大変幅の広い人脈と活動

を目の当たりにし、改めてその活動に敬服するとともに、会長職の重責を痛感しました。

熊倉会長は本当に素晴らしい活動を推進し、まさに最適任者であられたわけで、その後を受け継ぐことになり、まさに身の引き締まる思いです。

——熊倉会長の後を受けて活動されるわけですが、抱負をお願いします。

熊倉会長は、副会長として1年、会長として17年間務められ、卸売業界のために全力で行動されました。そのことで築き上げられた地盤をしっかりと

りと受け継ぎ、卸売業界の健全な発展に向けて、様々な課題解決に政治の力添えをいただく姿勢で私も精一杯務めさせていただきたいと思えます。

卸連合会と連携を取りながら、議員の先生に医薬品卸売業の諸問題についてご理解いただき、ご協力いただけるように努力していきます。

流通改革にしっかり取り組む

——薬政連の運営に当たってお考えになっている基本方針を教えてください。

まず、医療に対する社会的な関心が大変高まっています。医療の質的な向上を図りつつ、逼迫する財政状況の中で、健康的な国民生活を将来にわたりいかに担保していくかが大きな課題となっており、様々な議論がなされています。

かつて医薬品卸は「縁の下力持ち的存在」でした。しかし、大きく変化する社会環境の中で、我々医薬品卸売業界に求められる役割がますます大きくなっており、存在意義が高まっているのではないかと思います。それは、いかなる状況でも安全安心に、そして安定的に医薬品を届ける流通を提供することであり、その責務を肌で感じています。

——流通改革が大きな課題になっていますが、取り組みに向けてのお考えをお聞かせください。

流通改革は卸売業界にとって重要な課題であり、厳格に取り組んでいかなければなりません。卸連合会の鈴木会長も「今年は流通改革を定着させる年だ」との強い決意を示しています。この流通改革では、政治の力を借りる場面が出てくるかもしれません。そのときこそ薬政連の働きが問われますので、医薬品卸売業界の健全な発展に向けて、私も微力ながら卸連合会とともに流通改革に全力で臨んでいく所存です。

また、現在の医療提供体制の中では、卸の商流がいかに効率的で効果的かも問われています。我々も切磋琢磨し自助努力することは言うまでもありませんが、各方面の理解と協力が不可欠であり、薬政連としても様々な働きかけをしていきたいと



考えています。

——今後、流通面ではどのような変化が見込まれるでしょうか。

医薬品の物流においては、今後、ジェネリックのウエイトが高まってくると思います。それは、医薬品卸に大きな変化をもたらすでしょう。例えば、5万円の先発品の特許が切れてジェネリックが出てくると、現在の薬価算定方式ではそのジェネリックは3万円という価格になります。同じ手間と人件費で、そのジェネリック医薬品を運ぶことになるわけです。そうなった場合、それまでのコストでいいのかということになるでしょう。

現在、医薬品の6割をジェネリックにしようとする使用促進が図られているわけですから、我々は近い将来、間違いなくそういう問題に直面するでしょう。同じ医薬品を運ぶのに単価が下がってくるわけですから、厳しいコストで物流体制を維持するために知恵を絞っていく必要があります。

医薬品卸の存在価値をアピール

——薬政連としても、医薬品卸の存在価値を高め、いく取り組みが必要ではないでしょうか。

一般的な流通業者でも医薬品を運ぶのではないかと人がいます。単に医薬品を運ぶだけであれば、それは可能でしょう。しかし、医薬品は生命関連商品であるだけに、他の商品の流通とは異なり、単に届けるだけでは済みません。必要と

されるタイミングに合わせ、情報も一緒に届けなければならないからです。医薬品の能書や包装が変更になったときの返品作業もあります。副作用が発生したり、薬の中に異物が入っていた場合には、その商品をすべて回収しなければならないことも起こってきます。温度管理も必要です。果たして、これらを現在の一般的な流通業者に任せられるでしょうか。

だからといって我々卸も、現状に安住してはなりません。より良い医薬品流通を目指して不断の努力が必要です。その上で、ほかの業界には負けないという自信を持っていいのではないかと私は思っています。

例えば、東日本大震災が起こった1週間後に、私は郷里の会津若松市に届け物があり、宅配便に持っていきました。すると、「高速道路が使えないので東北への荷物は受けられない」と断られてしまいました。一般的な品物であれば仕方がないのですが、もしこれが生命に関わるものだったとすれば許されないでしょう。その意味で我々医薬品卸は、大震災後の厳しい道路事情にあっても医薬品を運び続けました。我々の物流体制はすごいと思えました。

まずは、医薬品を必要とき、必要とする場所に、安全・安定・迅速・確実に届ける責務を全うすることが大事です。その上で、主張すべきはしっかりと主張し、社会的に認めていただくことが重要であり、そのための活動にも力を入れていきたいと思えます。

——その意味で、**新型インフルエンザや東日本大震災で大きな力を発揮したことを、もっとアピールしてもいいのではないのでしょうか。**

新型インフルエンザが流行ったときも、東日本大震災のときも、我々医薬品卸は危険や困難な状況にありながら、医薬品を必要とする場所に届けるという使命を果たしました。その緊急時に発揮された卸機能は社会的に高く評価されました。

先の新型インフルエンザ流行時の対応においては、我々医薬品卸にはワクチンが回ってきませんでした。そのことに対して私は、我々の仕事の内

容をもっと社会に理解してもらう必要があると痛感しました。もちろん卸の社員は、ワクチンが回ってこなかったにもかかわらず、医薬品を必要とする医療機関などに届けました。

こういった東日本大震災やパンデミックの際に発揮された卸機能が社会的に評価され、卸は昨年4月に施行された新型インフルエンザ等対策特別措置法に基づく指定（地方）公共機関に指定されました。これは大変大きな成果であり、卸機能が社会的に認知された第一歩であると思います。

しかし、我々医薬品卸は社会的責任をさらに強く認識し、主張していく必要があります。というのは、新型ワクチン接種の優先順位の枠に入っただけでは、まだ十分だとはいえないのではないかと考えるからです。医療従事者が最優先なのは分かります。もちろん、警察や自衛隊、消防も重要です。その人たちのワクチン接種が最優先であることは否定しませんが、そのワクチンを運ぶのは誰なのかということなのです。我々卸の社員全員が新型インフルエンザに罹ったら、ワクチンを届けることができなくなります。せめて我々が50%動ければワクチンを運べますから、その人数分は最優先にしてもらいたいというのが私の思いです。

ワクチンだけでなく、薬が必要な患者さんはたくさんいます。その患者さんに医薬品を届けるためにも、医療機関へ誰がワクチンや医薬品を届けるのかを訴え続け、最優先順位を引き続き検討していただけるようにしたいと思っています。

——**粘り強くお願いしたいと思えます。**

薬政連としても、医薬品卸の機能と役割についてご理解とご協力をいただける議員の先生の輪をさらに広げるとともに、主張し続けなければならないと思っています。医療を良くし、国民の命と健康を守りたいという我々の主張を何度も何度も丁寧に説明していきます。

——**東日本大震災でも高く評価されました。卸の社員は使命感が強いのではないのでしょうか。**

東日本大震災では、各社とも本当に頑張り、1日たりとも休むことはありませんでした。

福島、宮城、岩手が注目されましたが、茨城や

千葉の被害もひどかったですね。水や電気が止まり、現場の社員は大変な思いをしたでしょう。にもかかわらず、医薬品流通という使命感で動いていたのではないかと思います。避難所から職場に通って頑張った社員も少なくありませんでした。

卸 への理解者の輪を広げる

——今後の活動の戦略を教えてください。

今後の政局では、当面大きな選挙はないと思われます。比較的落ち着いた時期になるので、その間、「いかなる場合でも医薬品は流通させる」という卸売業の社会的使命や我々の営業活動を議員の先生に正しく理解していただく活動を進めたいと思います。また、そういう活動に力を入れ、ご理解をいただける議員の先生の輪を広げていく絶好の機会でもあるでしょう。

熊倉会長の築かれた議員の先生との太いパイプを大切にしながら、次代を担う若手中堅議員の先生とも積極的に交流したいと考えています。

災害時やパンデミック時の対応、流通改革の他にも差し迫った消費税10%増税問題、さらにはインターネット販売、偽薬対策など、課題は山積しています。卸連合会と連携を深めながら、様々な課題に的確に対処していきたいと思います。

考 える力を養うことが重要

——信条や座右の銘を教えてください。

私は、昨年NHKの大河ドラマ「八重の桜」で話題になった会津若松の出身です。ドラマの中では、たびたび「ならぬものはならぬ」ということが言われていましたが、これは会津藩の藩校で徹底して教えられたことでした。私も親から「だめなものはだめだ」と言われました（笑）。

また、「考える力を養え」と常に思っています。例えば、なぜ流通改革に取り組まなければならないのかを、まず考える。考えることで新たな気づきが生まれれば、行動は変わります。行動が変われば、実績に現れていく。実績が上がれば、仕事



が楽しくなり、そして、人生が楽しくなる。私はそう思っています。

——最後に会員へのメッセージをお願いします。

医薬品卸は大変大きな社会的使命を担っています。これに誇りと自覚を持って業界の様々な問題点を正しく社会に伝えていくことが必要です。そのための薬政連の活動に対し、皆様のご理解とご協力をお願いしたいと思います。

また、薬政連組織では、地方の活動も活発化させ、地元選出議員の先生方との交流によって新たなパイプをつくって裾野を広げたいと思っています。女性の社会進出も大きなうねりとなっており、薬政連としても女性の活動に大きな期待を寄せています。女性部の活性化を図り、さらに薬政連を厚みのある組織にしていきたいですね。

我々の活動が、日本の誇るべき国民皆保険を守り、日本の医療の発展に貢献していくことにつながると確信しています。医療業界の流通のプロとして、適切で客観的な情報をしっかりと伝え、主張すべき点をしっかり訴えていきたいと思いますので、ご支援とご協力をよろしくお願いします。

——熱いお話をありがとうございました。新会長としての舵取りに期待しております。